

# 古里の宝 外国人客にPR

■ 東京都渋谷区 矢口正武 67歳

カジノ議連ができ、何が何でも法案を通して2020年の東京五輪・パラリンピックに間に合わせようと躍起になっていますが、果たしてカジノを含む統合型観光リゾート（IR）で地方は潤うのだろうかという疑問が湧きます。

ラ・バード（英国の女性旅行家）は1878（明治11）年、日本の奥地を旅して「東洋のアルカディア（桃源郷）である」と山形を称賛しました。

姿を思い出させる美しいところであると語っています。白洲次郎（元貿易庁長官）は1951（昭和26）年、東北電力初代会長に就任すると、59（同34）年に蔵王で山荘を建て、スキーを楽しみ「東洋のサンモリッツにしよう」と奔走しました。松尾芭蕉は奥の細道で出羽三山を巡った後、「不易流行」という言葉を残して

います。変わりゆくものがあるけれど、残さなければならぬものがあると言っています。最上川は吾妻山付近に源を発し、置賜から村山と北に向かつて流れ、最上で大きく西向きを変え、庄内から日本海へと注いでいます。このように雄大な自然と歴史、文化、おもてなしの心が脈々と息づいています。

こうした山形は、カジノなどが入る隙がないほど素晴らしい資源に恵まれています。ふるさとの宝をみんなの力で掘り起こし、インバウンド（訪日外国人旅行者）を観光「やまがた」に呼び込む活動に、県民挙げて取り組もうではありませんか。

ふるさと山形を例にとつて考えてみました。イザベ